

大信寺からのお知らせ

大信寺住職 岡田真幸
平成20年7月7日

本堂階段に手すりを設置

1月に、篤信の方から本堂正面の階段に手すりを付けてほしいとご寄付をいただきました。

設置後、試していただきましたが、これで安心して昇降できるとお喜びでした。



墓参用水道を設置

3月に、境内墓地北側のブロック塀のそばに水道と手桶を設置いたしました。どうぞ、お墓の水そうじにもご利用下さい。



墓地のブロック塀を延長

墓地を新たに造成したことに伴い、ブロック塀を5.6m延長しました。業者に依頼すると30万円ほど必要なため、5月の連休を利用して、住職自ら、穴掘り、型枠敷設し、桜井建材店にて鉄筋、生コン、ブロックを調達、更にはご指導も。

そこへ、篤信の方が墓参の際、

「住職、何をやっているのですか?」と、

「私にも是非、手伝わせて下さい」と。

そこで、二人で朝8時から夕方6時まで3日間の

作業。素人の出来映えながら完成しました。費用は約7万円。屋根は赤石屋根工事をお願いして約9万円。合計16万円で完成しました。

篤信の方いわく「いずれ、墓の中から、あの塀は俺が作ったんだと毎日眺められる」と。

お布施とは自分の財を喜捨するだけではありません。このような方の行いを身施(身をもって施しをする)と申します。



崖の上のポニョ7月19日公開

スタジオジブリ 宮崎駿監督作品「崖の上のポニョ」が全国東宝系で7月19日からロードショーとなります。

この作品では、稲村武志氏(大信寺壇信徒、邑楽町大黒出身)が作画監督補佐を務めています。是非、ご覧下さい。

稲村氏は1992年公開の「紅の豚」以来、「もののけ姫」、「千と千尋の神隠し」や「ハウルの動く城」などの作品で作画や作画監督を務めました。

(ポスター掲載はスタジオジブリ承認済)



仏跡巡礼一人旅 巻1 霊鷲山

成田空港からインドの首都デリーまで10時間、寝台特急でガヤーまで11時間、更に、満員バスに3時間揺られてラージギルにやっと到着する。ここは、2500年前、お釈迦さま時代にマカダ国の首都である王舎城として栄えた。この城は周囲40kmの城壁で囲まれ、今でも高さ1.5m、幅2mほどの城壁の一部が往時を偲ばせる。時の国王は、頻婆娑羅(ピンビサーラ)王であり、お釈迦さまに深く帰依していた。

この城内の南方にグリッドラクータ山がある。ここでお釈迦さまは、晩年、説法をされた。別名を霊鷲山(りょうじゅせん)ともいう。

ラージギルは、小さいが、のどかな街ではない。雑然と喧噪である。路傍にはゴミが散乱し、野良犬や聖なる牛が闊歩し、サイクルリキシャー(自転車の人力車)、タンガー(ロバが引く客車)、バスやトラックがけたたましく走り去っていく。

ここの2月は日本の初夏の陽気であるが、5~8月の夏には、気温45度にも達し、

激烈である。人も大地も燃え上がる太陽にさらされ、自然は容赦をしない。そんな中で、仏教は誕生したのである。

到着後、まずは、ホテル探し。見当を付けたホテルにて1泊1,400円で交渉成立。チェックイン後、商店が立ち並ぶ中心部でタンガーを雇い、南へ5km、20分で霊鷲山の麓に到着する。ここから、1kmほどのなだらかな坂道を上ると山頂に着く。山頂といっても、ラトナギリ(多宝山)の山腹にある小高い丘である。この道は、ピンビサーラ王がお釈迦さまに会いに行くために整備した道であり、現在では、日本の信者の協力により幅2mほどの階段状の舗装道路となっている。

少々、息が切れた。現在、2008年2月17日午後5時。山頂近くには、洞穴が二箇所あり、お釈迦さまの弟子である阿難(あなん)がここに籠もって瞑想していたという。山頂には、畳30帖ほどの平地があり、西側には幅3m、奥行き4mほどのレンガ造りの土台だ



けが残る祠堂(香室)跡がある。お釈迦さまは、晩年に、好んでここに逗留され、しばしば説教をされたという。

それで、ここが舞台となっている経典も多い。

例えば、法華経、無量寿経や観無量寿経の冒頭部には、『私はこのように聞きました。ある時、お釈迦さまは王舎城という国にある耆闍崛山(ぎしゃくつせん、霊鷲山のこと)に千二百五十人の修行者たち、三万二千人の諸菩薩とともにおられた。』

とある。ここで「私」とは弟子の一人である阿難のことであり、一般に経典は、弟子たちがお釈迦さまの説法をこのように聞いたという形式で書かれている。

さて、実際には1,250人、更には32,000人もの大勢がとて

も入れる余地は、ここにはないが、ここでお釈迦さまが説法をしたことは史実であろう。



ちょうどタイからの巡礼団20名ほどが祠堂に向かって読経中であった。その先には原生林に沈む夕日が眩しい。私も声の大きさでは負けずに一人法要を開筵した。

